



<使い方>

プラリペアは、粉と液を必要量だけ混ぜて使う2種混合タイプです。練る必要がないので非常に簡単、3秒でOK。

<接着対象物>

プラスチック (ABS、ポリカーボネート、アクリル、塩ビ、スチロール、ポリエステル、ビニール)
 ◎ポリエチレン・ポリプロピレン・フッ素樹脂には接着しません。

<特長>

1. 化学接着力で……大きな力や振動の加わる部分の接着も安心。
2. 造形力で……すき間のある物の接着、穴うめ、欠けた部分の補修、ネジ山再生が出来ます。
3. 硬化の早さで……即日に研磨、塗装、メッキが出来ます。

※ 再破損により危険をとまなう部品の修理には使わないこと。

* ニードル法 * (基本的な使い方ですので必ずマスターして下さい。)



針の途中に穴が開いています。(PAT.)



容器を軽く押さえると穴から液が出てきます。



さらに軽く押さえれば針先に液滴を作ります。



液滴が大きい時は大きい玉状物が出来ます。



液滴を粉の上に落とすとすぐに玉状の混合物が出来ます。



粉の中の玉状混合物を針先で突き刺して持ち上げます。



すばやく玉状物を削った溝の上まで運びます。



すぐに液を出して玉状物を針先からはずします。



さらに液を出して針先でのばします。



のびにくいときはさらに液を出して針先で混ぜながら流し込みます。



2つ目の玉状物を選び、すぐに液を追加する。



針先でのばして流し込む(これをくり返しながらすべての溝を埋めてゆく)

割れ、欠け補修

板状物のヒビ割れや欠けた部分の補修



ヒビ割れと一部欠けた部分を
修理します。

前処理



割れ目に測ってルーター
等を使い溝を作る。
(表の塗装面まで深く削
る事)
欠け部分断面は削って新
しい面を出しておく。



表面にセロテープを貼り、
液もれと位置ずれを防ぐ。



ニードル法で玉状物を溝
部分の上まで運び、すぐ
に液を追加して玉状物を
針先からはずす。



さらに液を追加して、針
先を左右に動かしながら
底の部分から埋めてゆく。



2つ目の玉状物を運んで
同じようにくり返す。
(ドロ状物を針先で導き
ながら埋めてゆく)



溝の両端の高さより少し
高く盛りつけてゆく。
(後で削って仕上げる)



欠け部分は底面から先に
埋めてゆく、細い部分は
特に注意深く、ていねい
に流し込む。



後で削って仕上げる為、
全体に多目に盛りしておい
た方がよい。



盛り終わってから硬化を待
ちます。



表面はテープのきれいな
面が出る。



ヤスリや電動工具で仕上
げる。



塗膜面の直下まで成形さ
れている為、塗装して表
面を仕上げるだけ。

<ポイント>

- ① 割れてのびた部分は削り取り、新しい面を出す。
- ② 溝は反対側の面にとどくまで深く削り込む。
- ③ 溝の底部分からブラリヘアをなじませながら流し込んでゆく。

部品再生

複雑な部品部分の再生修理



欠けてなくなってしまった部分を作って直します。

前準備



(同形部品)

同じ形の部品からその部分の型をとる。
(友人や業者に頼んで型だけ探らせてもらいましょう。)



複雑な方の面から型取剤を押し当てて、少し広めに型取りをする。

少しかぶる位に採った方が仕上げが楽になる。



この「型」さえあれば百人力！



「型」を割れた部分に正しくはめ込む。
(割れた断面は削って新しい面を出しておく)

ニードル法で「型」の底部分からいねいに流し込んでゆく。

底と部品断面部にきれいに流し込んでから上方へ積み上げるように盛ってゆく。

少しオーバーめに盛り上げて、硬化するのを待ちます。



裏面はバリや凹凸が出来る。

表面は型取剤のきれいな面が出る。

バリを除去し、ヤスリ等で仕上げます。

<アドバイス>

ネジ止め時に影響のない部分は肉盛をして2度と割れないように補強することも出来ます。

ネジ山再生

プラスチック部品のネジ山がつぶれて
ネジが効かなくなったとき



ネジ山を少しつぶしてネジが正しい位置まで落ち込むようにする。



ネジ山に油をぬり、軽くふき取る。



ニードル法でネジ山のまわりにブラリベアを塗りつける。



ネジ山がかくれる位まで塗りつける。少し多目でもかまわない。



すばやくネジ穴に差し込み指先で5秒位押さえる。



表面が硬化しても内面は少し時間がかかるので1時間は待って下さい。



ドライバーでネジをもどします。



表面のバリを取って仕上げます。

うすい板状物の補強修理

FRPと同じようにガラスせんいを封入しながら積層接着が出来ます

<準備するもの>

- ①ガラスせんい (布状物)
- ②ポリ袋を切ったシート

<方法>

写真のとおり到手早く行ない、ベタッと押しつけてからポリエチレンシートの上から軽く、指又はへら等で厚味を均等にしてやればきれいに仕上がります。



ポリエチレンシートの上に補強用のガラスせんいを置きます。



ガラスせんい全体に均等に粉末をふりかける。



液をポトポト落として粉が液で完全に浸るようにする。



ブラリベアで修理した部分の補強をする場合。



ポリエチレンシートごと手に持って貼りつけて、その上から指又はへらで厚味を均等にする。



硬化してからポリエチレンシートをはがしバリを削り取って仕上げる。